

大豆の播き遅れ対策について

今年、梅雨入り後、特に6月中旬以降断続的な降雨の影響により大豆の播種作業が大幅に遅れています。

一般に播種が遅延すると開花までの日数が短くなり十分な栄養生長期間が確保されないため、生育量が少なくなり低収になります。ほ場の土壌水分や播種後の天候に留意し播種作業を行いましょう。播種時期がかなり遅れる場合は、以下の点に留意してください。

1. 播種量を多くする

播種が遅れると生育量が小さくなるため、莢数が減少します。播種時期が7月下旬以降になる場合は播種量を標準より1～2割程度多くします。そのためには、狭畦播種、もしくは株間を最小にするなどで対応してください。

(3.で説明します)

2. 排水対策と種子消毒で出芽と初期生育を良くする

播種時期が遅れると生育量が少なくなりますが、湿害を受けるとさらに生育が不良になります。また、土壌水分が高いと種子が腐敗しやすく出芽が悪くなります。したがって、播種時期が7月下旬以降になる場合は、圃場周囲の明渠設置や、成畦播種栽培(小明渠播種、内盛による畝立て)により湿害を回避するとともに、種子消毒(クルーザーMAXX等:塗沫処理)を行い、出芽数と初期生育の確保に努めます。

3. 狭畦播種

(1.に同じ)

播種時期が遅れると生育量が小さくなるため、従来の畝間 70cm 程度に対して 40cm ほど(畝幅は機種によって前後します)の狭畦で播種をする方法があります。畝間が狭いので中耕培土はできないため播種時の除草を徹底する必要があります。

〔 土壌処理剤を適切に散布すること。〕

〔 処理層の形成を確実にするため播種時の碎土をよくすること 〕